

小学生らが育てたアマモを植える



大阪湾の再生に一役

ネット輪-ク

環境教育技術振興会

清掃のほか、大阪府などが進める大阪湾の再生プロジェクトにも二〇〇四年から加わり、砂の多い浅い海底に群生するアマモを移植。一帯が魚などの生育場所に生まれ変わる地道な取り組みだ。苗を地元の小学生らに育ててもらうなど環境学習にも役立てている。

根付くのは一割以下だが、四年前に植えた苗が約三割まで成長するなど成果も出始めた。理事長の関藤博史さん(41)は「大阪湾がダイヒングスポットになる目を目指して、取り組みの輪を広げたい」と話す。

「海に親しみ、大切に
する心を育てたい」。こ
んな願いを込めて、大阪
湾で水質浄化に役立つア
マモを植える活動をして
いるのがスキューバダイ
バーらでつくる特定非営
利活動法人(NPO法人)
「環境教育技術振興会」

(大阪府松原市)だ。

温暖化によるサンゴの
白化や生活排水などによ
る汚染が進む海の現状に
心を痛めてきたダイバー
が集まり「地球のために、
できることから始めた
い」と立ち上がった。

サンゴの移植や海底の

〈組織の概要〉

- ▼設立 2003年
- ▼会員 約30人
- ▼主な活動 アマモの移植や
児童らへの環境
学習
- ▼開催 月1回の定例会
- ▼代表者 関藤博史理事長